

< 目 次 >

- 1 【 実践事例 】 「山口小学校 PTA（宮古市）」《読書活動の推進》
 - 2 【 読書活動 】 平成 22 年度全国学力テストに思う（その 3）
 - 3 【 教振は今 】 教ちゃん、振ちゃん見聞録
 - 4 【 みんなの声 】 ペっこ言い隊
 - 5 【 編集後記 】 あつしのひとりごと
-

1 【 実践事例 】 「山口小学校 PTA（宮古市）」《読書活動の推進》

学校支援地域本部事業を活用し、学校図書館ボランティアを立ち上げた山口小学校 PTA は、児童が利用する図書室のほかに、指導者が利用する「図書館経営室」を設け、地域の力で学校の図書環境を整えています。また、朝読書の本は前日のうちに選び、朝読書の始まりをスムーズにする工夫をしています。

事例は⇒http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/jirei_yamaguchi.pdf

2 【 読書活動 】 平成 22 年度全国学力テストに思う（その 3）

以前より、全国的に中高生の読書離れが懸念されています。岩手県の不読者率（1か月に1冊も本を読まない生徒の割合）は、平成 21 年度調査において、中学 2 年生が 10%、高校 2 年生では 35%でした。

県教育委員会では、この中高生の読書離れを解消するために、中高生の意見を取り入れた『いわての中高生のためのお薦め図書 100 選（仮称）』というブックリストを今年度中に作成し、県内の中高生に 1 冊ずつ配布することとしています。

また、同時に県内 3 か所で『中高生のための読書ボランティア研修会』を実施し、中高生等（県北地区；53 名、沿岸地区；26 名、県南地区；35 名）に対して、読書活動の推進や社会参加活動への意欲付けを図ってきました。

その研修内容は、保育園児や小学生に実際に読み聞かせを行ったり、図書の修繕をやってみたりという体験的な内容と図書館司書や県議会議員、作家から読書の魅力についての講話を聞くというものでした。講話では、生き方や職業について考えさせられる面もあり、中高生は大いに刺激を受けていました。

平成 22 年度の全国学力テストにおける「家や図書館で、普段（月～金）1 日に読書をする時間」の結果をみると、30 分以上読書をする中 3 の割合が、25.2%（H21）から 27.7%（H22）に改善されてきています。しかも、全国平均（27.3%）

を上回るようになりました。

県平均で言えば、本県中学生の読書活動の推進は、着実に成果をあげてきているといえるでしょう。皆さんの学校の児童・生徒の実態はいかがでしょうか。10月に実施される「学習状況定着度調査」は、これまでの取組の成果を確認する機会です。

3【教振は今】教ちゃん、振ちゃん見聞録

(教ちゃん) 児童生徒の家庭での学習時間や読書時間が短いことから、何よりも取り組むべき課題として、「家庭学習の充実」と「読書活動の推進」の2つを教育振興運動の全県共通課題にしたのよね。

(振ちゃん) 急にどうしたの。もう、みんな知っていることだよ。

(教ちゃん) 改善すべき点だから、この2つに注目が集まるけれど、岩手県の子どもたちは、素晴らしいっていうことを言いたいよ。

(振ちゃん) なに、なに？何がすごいの？

(教ちゃん) 「全国学力テスト」質問紙調査の調査項目は、77項目あるの。その中に、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という項目があってね。平成22年度の調査で、「参加している」「どちらかといえば参加している」と回答した小6は、全国平均が61.6%のところ、岩手県は81.2%もいるの。中3は、全国平均が34.3%のところ、岩手県は54.5%なのよ。

(振ちゃん) 地域という基盤がしっかりしていて、地域全体で子どもを育む雰囲気教育振興運動によって培われてきたからだね。

(教ちゃん) 本当にそうね。この質問項目の岩手県の順位は、小学生は全国3位、中学生は全国1位なのよ。

(振ちゃん) すごいなあ～。この地域とのつながりで全県共通課題に取り組めば、家庭学習の充実や読書活動の推進も、必ず成果が上がってくるね。

< 参 考 >

小6 ①長野 85.9% ②山形 83.5% ③**岩手 81.2%** ④新潟 80.7% ⑤富山 77.7%

中3 ①**岩手 54.5%** ②長野 54.0% ③岐阜 52.7% ④愛媛 52.1% ⑤山梨 50.9%

4【みんなの声】ぺっこ言い隊

いつも楽しく拝見しております。先日、公民館に行く機会がありました。「〇〇講座」とか「子ども〇〇体験」といった事業をやっていることは知っていましたが、公民館が「生涯学習の拠点」であることは全然知りませんでした。

だれも受け取らないようなチラシが並べられ、関係者しか出入りしていないのではないかというのが、これまでの率直な印象でした。そもそも、住民の皆さんに「公民館とはどういうところか？」が周知されていないのも、大きな原因ではないかと思えます。

教育振興運動が、学校区だけでなく、公民館区で取り組まれている市町村もあると知って、これも驚いているところです。5者がそれぞれの良さや力を発揮するための地域拠点として、公民館はもっと存在感を増すべきだとも考えます。もっとPRして、公民館をさらに活用できないものでしょうか。

(H町Cさん)

⇒ 公民館は、地域の核となって地域課題を解決する社会教育施設です。対象は当該地域の住民なので、PRは地域の回覧板や掲示板等の広報、利用者の口コミが中心となると思います。公民館に何かをしてもらうのではなく、公民館を活用して地域を作っていくという住民の姿勢が活用の鍵でしょう。

4 【編集後記】あつしのひとりごと

- (1) 国語のテストで、「『無』で始まる三字の熟語を答えなさい。」というのがあったが(解答例は「無意識」や「無関心」など)、ある男子の解答には「無人君」と書いてあった。
- (2) ○○さんは、小学校国語の穴埋めテストで「かわいい子には、()をさせろ」の()の部分に「楽」と答えていました。
- (3) 歴史のテストで、「宗教改革を行ったマルティン・ルターは何人でしょう」という問題があった。クラスの大勢が「一人」と解答していた。
- (4) 「金星は明け方にだけ見えて、夜中には見えない理由を書け」という理科の問題が出た。僕の友人は「人は、夜中に寝ているから」と書いていた。テスト問題の珍解答を集めた本が売られています。読んでみると、笑ってしまう反面、笑えない自分があります。言葉を知らない、問題の意図を読み取れない子どもたち……。これも読書不足が原因と言ってよいだろうか？

⇒ 第30号は、10月12日(火)配信です。

★メルマガの感想や日頃思っていること、意見・要望をお寄せください。

⇒ 21kyoushin@gmail.com

~~~~~配信元~~~~~

- \* 岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課
- \* 発行人：教育振興運動担当 佐藤敦士(さとう あつし)

★平成21年度配信のバックナンバー(第1~17号)はこちら。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/index5.html>

★平成22年度配信のバックナンバー(第18~26号)はこちら。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/index8.html>

★平成21年度「家庭学習」と「読書推進」の実践事例はこちら。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/index3.html>

★平成22年度「家庭学習」と「読書推進」の実践事例はこちら。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/index6.html>

~~~~~